



『青い目の人形』を通じて

桃生小学校

今回は桃生地区にある桃生小学校を紹介します。



▲青い目の人形「メリー」ちゃん

桃生小学校は、桃生町檜崎にある全校児童130人の学校です。学校周辺は緑があふれ、自然を感じることで、子ども達はのびのびと明るく元気に学んでいます。

桃生小学校は、明治6年に設置された永井小学校、太田小学校、檜崎小学校が基となっており、「桃生小学校」と改称したのは昭和22年のことです。昭和58年、現校舎の完成と同時に、永井と太田の分校が廃止され、檜崎・太田・永井・牛田・倉坪・脇谷の広範囲を学区とする小学校になりました。



▲田植えの様子

昭和2年に、平和と友情の使者としてアメリカのシドニー・ギューリックさんから贈られ、現在、県内で10体しか見つかっていない「青い目の人形」がある学校として知られてお



▲運動会ではねこ踊り

り、この人形を通して、平和と友情について考える授業や交流事業を行っています。

その一方で、郷土芸能「はねこ踊り」の伝承活動にも力を注いでいます。平成12年に、桃生小学校と地域の方々が一緒に、「日高見はねこ会」を設立しました。運動会などの学校行事のほか、地域行事や市のイベントなどにも出演しています。

桃生小学校も他の学校と同様、児童数が減少していますが、かしく、やさしく、たくましい児童の育成を目指し、保護者・地域・学校の信頼関係の深い学校づくりを行っています。

にぎやか家族 ⑮

小 淵 浜



《写真左から》

後 藤	楓	花	ちゃん(11歳)	婦人警官
	椎	那	ちゃん(9歳)	美容師
	沙	綾	ちゃん(14歳)	保育士

《両親から》

3姉妹、いつまでも仲良く健康でいてね。

《子ども達の将来の夢》

今月の表紙から

お雑煮や七草粥などにセリが活躍する季節となり、河北地区では収穫作業が最盛期を迎えています。

元相野谷地区のセリ田では、早朝から冷たい水のはたき田んぼに、腰までこつぷりと浸かりながら、ていねいにセリの収穫作業をしている姿が、あちらこちらで見られました。この時期は夜遅くまで収穫作業が続けられることもあります。

河北地区でのセリ栽培の歴史は古く、江戸時代までさかのぼるといわれています。近年では、減反政策によりさらに広く栽培されるようになり、現在では作付け総面積12ヘクタールと、県内では名取市に次いで2番目の広さになっています。地区内では、河北セリ部会と河北セリ出荷組合の2つの組織が「島根みどり」と「飯野川」の2品種を栽培、出荷して



河北セリ部会 部会長 高橋正夫さん (元相野谷)

います。セリは、カリウム、カルシウム、ビタミンCや食物繊維が豊富で、鉄分も多く含んでいるため、貧血予防や美肌にも有効で、また、血圧を下げる効果も期待できる食物です。生のままサラダとして食べたり、さつとゆでておひたしにしたり、また、天ぷらにしてもおいしく食べられます。夏場を除いた長期間出荷されている食材なので、ぜひセリの香りと風味、歯ざわりを楽しんでみてはいかがでしょうか。



サークル仲間

なかま 16

きれいなハーモニーが
若さと健康を保ちます

女声コーラス 『ねむの木』

今回は、女性だけの合唱団、女声コーラス『ねむの木』をご紹介します。



した際に最初に歌った「ねむの木の子もり歌」に由来しています。

現在は、末永氏の後を継いだ指導者のもと、スタンダードな合唱曲だけでなく、中島みゆきやサカサカ・姫神などの曲も歌っています。

メンバーは、「若さと健康を保つために合唱を楽しもう」をモットーに月2回の練習を楽しんでいます。

ねむの木は、現在21人のメンバーで、毎月第2・4日曜日に石巻中央公民館で練習を行い、市民合唱祭・ふれあい合唱フェスティバルなどに出演するなど、活発に活動しています。昨年はフロアのバリトンコンサートにも賛助出演しました。

かつて40年ほど前、石巻小学校の母親学級コーラス部がありました。その後、仕事の関係で石巻を離れていた指導者である末永聡行氏が、石巻に戻ってきたことにより、メンバーが再度集まって、合唱を始め、平成元年に女声コーラス『ねむの木』が生まれました。「ねむの木」という名前は、再結集



長寿のみけつ

15

百歳の喜び 分かち合い

門間 操さん(雄勝地区) 100歳

今月は、11月28日に満100歳を迎えた門間操さんをご紹介します。



門間さんは明治39年11月28日、神奈川県須賀市で3人兄弟の長男として生まれました。

幼少のころを河北地区で過ごし、東京での出稼ぎなどを経て、故郷河北に戻り写真店を営みました。三陸津波の襲来を機に雄勝に移住、その後、結婚し、5人の子宝にも恵まれました。

しかし、戦争が始まると横須賀市にある海軍の変電所に徴用され、家族と離ればなれの生活を余儀なくされたのです。そして、多賀城市の変電所へと転勤ののち、終戦となり、家族の待つ雄勝へと帰ることとなりました。このころから写真店だけでなく駄菓子屋も営むようになりました。

そんな時代を生きてきた門間さんの長寿のひけつは、息子夫婦、孫夫婦とひ孫3人の8人家族で、毎日にぎやかな環境のなかで生活していること、毎食欠かさず果物を食べていることかな、と家族の方が話してくれました。そして、月に

一回程度、数日間のショートステイを利用しています。今回、百歳の誕生日は、ショートステイ先の雄心苑で迎え、職員や入所者の皆さんにもお祝いしてもらいました。

入所者の方達は、お互いに「おんだ、丈夫だから長生きすらいよー。まだ、80(歳)だからー」「んだなーあと20年がー」と会話をしていました。

こんなふうに、みんなを元気づける存在でいられるように、まだまだ元気で長生きしてくださいね、門間さん!!

